

みどりの風

2026

5

令和8年

今月の表紙「茶摘み」(撮影：片桐 宏子 様)

第14回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



CONTENTS

- 令和7年度農政連リーダー研修会と
第14回農業・農村の風景フォトコンテスト
表彰式を開催
- 第14回未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品決定!
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 東野ひでき氏コラム
- 農政連総支部だより(球磨)
- 中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

平成28年の熊本地震発生から今月でちょうど10年となる。一つの大きな節目を迎えた訳だが、犠牲となられた方々への追悼の想いを胸に、大災害からの復旧・復興の現在までの軌跡をたどり、創造的復興へとつないでいかなければならない。4月14日夜に発生した震度7の地震、揺れの大きさに誰もが驚愕したものだ。これは前震であった。本震は16日の未明に発生した。こちらも震度7を記録した。被害の大きさは連日、テレビ放映された。

前震で被害が大きかった益城地区の家屋倒壊には大きな衝撃を受けたが、まだ倒壊を免れた家屋もあった。しかし、2日後の本震の揺れには耐えきれず倒壊した家屋が多数に及んだ。テレビで映し出される映像には、家屋の倒壊のほかに、文化財建造物の被害や鉄道・道路・橋梁などの破壊、田畑にできた断層の亀裂、避難所の様子や車中泊の様子など深い悲しみを目の当たりにした。それから10年、現地の現状はどうなっているのか。主要な道路や鉄道は概ね復旧が完了しているが、文化財を伴う復旧は継続中であり、住宅再建も概ね完了している一方、災害公営住宅における高齢者の孤立問題や、コミュニティ形成の問題など新たな課題も生まれている。今後、特に必要となるのが心のケアや孤立化防止である。私たちは、熊本地震を経験した者として、災害の教訓を次世代に継承していく責任がある。

他方、東日本大震災からはちょうど15年となる。こちらも大きな爪痕を残したまま復興の途上にある。

令和7年度農政連リーダー研修会と第14回農業・農村の風景フォトコンテスト表彰式を開催

熊本県農業者政治連盟は3月2日、熊本市内で「令和7年度農政連リーダー研修会」を開催しました。

研修会には、農政連委員、生産者代表、青壮年部・女性部代表、J・A・連合会役員など約320名が参加しました。

主催者を代表し、農政連の宮本隆幸委員長（J・A熊本中央会会長）は、農業をめぐる情勢は、食料システムに基づく適正な価格形成や、生産資材高騰対策の拡充など、農業者の所得増大へ向けた実効のある具体的施策と万全な予算の確保が必要である。本日の研修会では農政連動の重要性を再認識し、来年の春には県議会議員選挙も控えていることから、農政連の盟友が丸となって各地区の候補

者の支援に取り組んでいただきたい」とあいさつしました。

さらに、藤木しんや参議院議員と東野ひでき参議院議員より「昨今の世界情勢が不安定な中、食料安全保障が農業の要であり、食料をしっかりと生産することの重要性を訴えていく。専業農家出身の2人がスクラムを組んで農家の皆さんの気持ちに伝えられる農政をやっていく」とあいさつがありました。

この後「高市農政」の課題と展望「生き残る産地・J・Aとは」と題し、日本農業新聞論説委員の緒方大造氏による講演がありました。

緒方氏は、高市政権が2月の衆議院選挙で自民党単独で3分の2を超え、1強

となった中での農政の課題として、早期の予算成立と水田政策の見直し、農業構造転換集中対策期間（5年間）の取り組み、20年間で国内の経営体が半減し生産基盤の弱体化、事業・経営基盤の弱体化による組織の危機などの話がありました。

その他、人手不足やJ・Aの担い手不足、物流危機問題、適正な価格形成に向けた国民理解の醸成、食料自給率100%を掲げた公約への具体的取り組み、高市早苗首相の農政の方向性や、食料システム法に基づくコスト指標（米・野菜・牛乳・豆腐・納豆）の課題に触れるなど多岐にわたり話がありました。質疑応答では、

・ 政治は、消費者目線で色々決定するが、生産者の苦しい現状を川向こうの消費者に伝えたいいけない。

・ 米価格が40年間も低いまま据え置かれてきて昨年やっと適正に近い価格になったことを新聞以外の手段も使って情報を発信してもらいたい。

・ 適正な価格形成を考えるにあたって、食料は人間が生存していくために必要なものだというところをもっと広めてもらいたい。

また、研修会に先立ち、J・Aグループ熊本とRKK熊本放送主催の「第14回未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト」の表彰式を行いました。



▲研修会であいさつを行う農政連の宮本隆幸委員長



▲緒方大造氏による講演会の様子



▲講演に熱心に耳を傾ける参加者



▲フォトコンテストで入賞した3名の皆さん
(左端は中央会の宮本会長、右端はRKKの森本局長)

第14回

未来に伝えたい農業・農村の風景

フォトコンテスト入選作品決定!

四季折々に移りゆく表情を見せる美しい農村の風景。その素晴らしい風景を未来の子供たちに残したいという思いから始まった、JAグループ熊本とRKK熊本放送で主催する「未来に伝えたい農業・農村の風景 フォトコンテスト」も今年で14回目を迎えました。

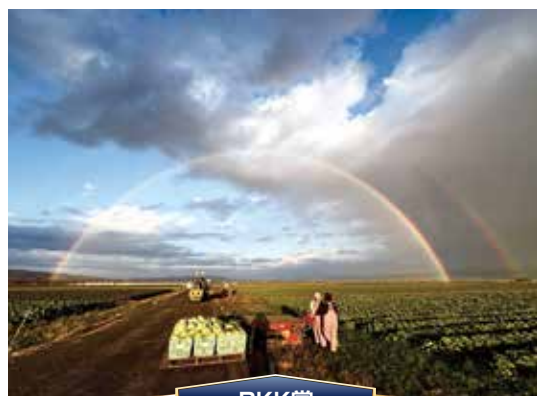
県内で撮影された農業・農村にまつわる様々な風景の一瞬を切り取った素晴らしい作品が毎年多数寄せられ、令和7年6

月から令和8年1月末まで実施した今回のコンテストにも、県内外から129名、555点の応募がありました。その中から25作品が入選し、そのうち5作品が受賞されました。

入選作品は、鶴屋地下通路、JA会館、JA熊本教育センターなどで展示されます。また、作品の一部は「農村環境保全キャンペーン」のCM素材や各種印刷物の素材等として広く使用させていただきます。



グランプリ 「土つき(どうつき)」 日當 國親 (八代市)



RKK賞

「雨上がり」

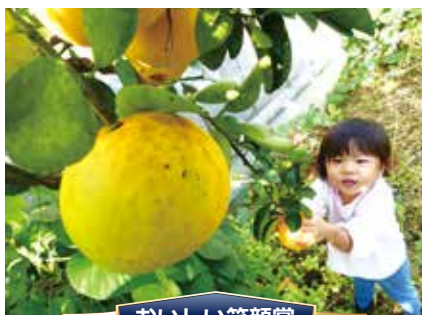
澤永 里奈 (八代郡)



JAグループ熊本賞

「獲れたよ!!」

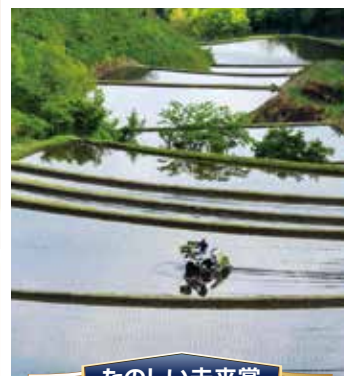
谷川 洋子 (熊本市)



おいしい笑顔賞

「大きな八朔、よいしょっと!」

谷津 由利子 (熊本市)



たのしい未来賞

「豊年満作を願い」

高木 龍男 (春日市)

入 選

東 由依 (熊本市)
 佐竹 俊彦 (熊本市)
 桐原 あい (阿蘇郡)
 内田 好香 (熊本市)
 今村 美穂 (阿蘇郡)
 中川 めぐみ (菊池郡)
 安田 貴栄 (球磨郡)

米田 順子 (熊本市)
 池田 隆幸 (宇城市)
 濱田 順子 (八代市)
 奥村 勝 (熊本市)
 片桐 宏子 (八代市)
 嶋田 志織 (玉名郡)
 小田 夏絵 (阿蘇郡)

上山 武尊 (玉名市)
 河本 泉 (菊池郡)
 高本 亜梨紗 (阿蘇郡)
 山本 英義 (八代市)
 那須 秀文 (熊本市)
 村上 憲雄 (阿蘇市)

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

【今後の米政策等にかかる検討】

令和7年4月に策定された食料・農業・農村基本計画の中で、「令和9年度から水田政策を根本的に見直す」とされていますが、令和8年3月に入り、自民党農業構造転換推進委員会にて本格的な議論が始まりました。3月23日現在で関連会合が5回開催されており、5月中旬に対策の基本的な考え方等のとおりまとめが行われるとともに、対策の単価等の実質決定は令和8年秋頃となる見込みです。私は全ての回に出席し、毎回意見しています。現場の声を政策に反映するため、今後も尽力して参ります。これまでの会合での意見概要は以下のとおりです。

・秋に最終決定とのスケジュールは問題ある、令和9年産小麦の播種前契約は5月であり契約後に単価示されても現場は対応できない。

・麦・大豆をしっかりと増やして所得確保と自給率向上を目指す方向はぶれるべきではない。

・米価が上がっている状況で水活等の単価が同じ水準では同意は得られない。農水省の「生産性向上への支援に転換、産地交付金等は面積に偏重」との考え方は違う。まずは面積の維持をしないで生産性向上しようなんて発想は現場にはない。

・米の在庫量は、農水省の想定よりも相当上振れる恐れがある。相当難しいが、真剣に数字を合わせにいかないと、備蓄にも相当影響する。系統外をどうグリップするかが課題だ。

・中山間地域直接支払は、集落機能自

体弱っている所が本当に多いことを念頭に置いて抜本的に見直す必要がある。事務量の多さが一番の課題で、担う人もいなくなっている。相当簡素にする必要がある。中山間地の市町村は財政難で知財措置も厳しい。

・セーフティネット対策は、収入保険にメリットを感じていない生産者が多い。主力品目だけでもしっかりと補填される仕組みにする必要がある。

・水稲の作付意向がほとんどの県で横ばいと出ているが、全国どこへ行っても去年より減らすなんて人は一人もいない。もっと緻密に数字を把握すべき。作付転換が進まない最大の要因は、水活の単価が出ないからだ。検討を急ぐべき。

【参議院農林水産委員会開催】

3月19日、国会会招集後、初の参議院農林水産委員会が開催されました。鈴木農林水産大臣から所信が述べられました。3月24日の委員会では、大臣所信への質疑が行われました。3月25日の委員会では、日本中央競馬会の国庫納付金に関する臨時措置法案および日本中央競馬法改正法案にかかる審議が行われました。

委員会では、全て委員長として司会を務めております。今後、農林水産関連法案の審議が行われていきます。委員長として全力で頑張ります。



▲3月19日参議院農林水産委員会司会

全国農政連推薦・県農政連推薦
参議院議員東野ひできの

現場と共に

【衆議院議員総選挙が終わりました】

第51回衆議院議員通常総選挙が2月8日に行われました。自由民主党は小選挙区で249、比例代表で67の計316もの議席を獲得し、高市政権は強い民意で信任されたものと考えております。私が全国各地で応援に入った候補も全員当選を果たしました。まさに歴史的な勝利と言えます。

2月18日からは第211回国会特別会が始まりましたが、参議院では少数国会運営は綱渡りの状況。私は、持続可能な農業を実現するため、これからも現場主義を貫き、つくる人・たべる人そしてそれを支える人たちの苦労がしっかりと評価されることによって、安心して食卓を囲むことができるよう、これからも全力を尽くしてまいります。

【熊本県農政連リーダー研修会に出席】

3月2日(月)に開催された「熊本県農政連リーダー研修会」に出席しました。年度末の慌ただしい中、300名近くの皆さんにお集まりいただき、ありがとうございました。会場では藤木しんや先生とともに、皆さんにご挨拶させていただきました。昨年の参議院選挙において、大変熱心にご支援いただいた熊本の皆さんにご挨拶できて本当に良かったです。朝早くからお集まりいただいた皆さんに対し、心より感謝申し上げます。

【農林水産委員会が始まりました】

3月19日に行われた鈴木農林水産大臣による所信演説を皮切りに、参議院農林水産委員会が始まりました。国会会では、農林水産関係の法案は計8本もあり、スケジュール的にも余裕はありません。いずれも重要な法案ばかりであり、今後のわが国農業のためにも、しっかりと議論を尽くすことが必要です。農林水産委員会理事として、円滑な委員会運営を心掛けるとともに、与野党間で熟議が行われることを切に願います。なお、前回の臨時国会に続き、国会でも私に質疑の機会があります。現場の声を質疑にしっかりと反映させ、実りある議論とするよう、藤木しんや先生と共に頑張ります！



▲農林水産委員会の様子

球磨総支部だより

県下には十一の総支部がありこの活動状況を毎月順次紹介していきます。

球磨地区総支部管内は、宮崎県と鹿児島県に隣接し、熊本県南部に位置しています。緑豊かで九州山地に囲まれた人吉球磨は山地型気候区に属しますが、盆地内は気温の寒暖差が大きく、夏の気温差は40度を越えたりします。
 昼夜の気温差も大きいため農産物の糖度は高く、濃い霧は霜から作物を守ります。管内では、球磨川の水で育った水稲を中心に、メロン、イチゴといった施設野菜の他に特有環境下で育った栗、梨等の果樹、香り豊かな球磨茶など様々な農産物が栽培され、全国へ出荷されています。

●球磨地区総支部委員総会

令和7年8月29日に令和6年度委員会総会を球磨郡内で開催しました。

食料安全保障の強化に向け、農業者が営農継続できる施策と、万全な予算措置。また、生産資材価格等高騰対策の継続・拡充と経営安定対策にコストの上昇を反映するなどの施策実現に向け運動を行うとして、四つの活動の重点事項を掲げました。

- ①食料安全保障の強化に向けた政策の具体化
 - ②適正な価格形成の実現と消費者への理解醸成運動
 - ③生産資材価格等高騰対策の継続・拡充と経営安定対策の強化
 - ④水田、畜産・酪農、園芸・果樹農業政策の確立
- 議事終了後に、参議院藤木眞也議員より国政報告をいただきました。



▲総会で藤木しんや議員より国政報告をいただきました。

●参議院選挙で東野ひでき氏を応援

昨年の参議院選挙においては、全国農政連と熊本県農政連が全国比例代表として推薦した東野ひでき氏を球磨総支部として強力に応援しました。

県農協青壮年部協議会が実施した「東野ひでき支援拡大キャラバン」(中球磨統括支所)を皮切りに、県南地区農政推進大会(八代市鏡文化センター)、選挙期間中の遊説での応援など青壮年

部、女性部、役員員総力で支援しました。
 東野ひでき氏は農家出身であり、農業現場の厳しさを理解されており、農家組合員の声を必ずや国政へ届けていただけるものと思います。



▲東野ひでき氏遊説で応援演説を行う福田勝徳総支部長

●地域貢献

当総支部では、地域貢献の一環として毎年、子ども食堂へのお米支援に取り組んでいます。

これは当総支部の自己改革の取り組みとして、農業と助け合いの活動精神に立ち返り、この現状に何らかの行動を起こすべく、子ども食堂に取り組んでいる団体に米の支援活動を行うもので、生産者から寄せられた支援米を提供しております。



▲毎年、子ども食堂にお米の支援を行っています。

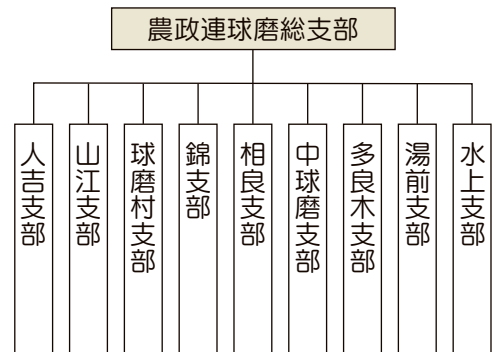
主な生産部会・組織数

組織名	構成員数(人)
青壮年部	365
女性部	1,314
メロン部会	110
胡瓜部会	149
イチゴ部会	58
野菜部会	176
果樹部会	1,054

組織名	構成員数(人)
花卉部会	54
筍部会	81
茶業部会	21
椎茸部会	38
稲作部会	511
肥育部会	16
青色部会	890

(令和8年2月末現在)

農政連球磨総支部構成図



「令和7年度熊本県JA広報・日本農業新聞大会」を開催

JA熊本中央会は3月2日、令和7年度熊本県JA広報・日本農業新聞大会を開催し、第9回JA広報コンクールや令和7年度日本農業新聞通信員功績表彰式等を行いました。

本大会は県内JAの広報活動の意義・重要性の再認識や、広報活動の強化を図ることの他、日本農業新聞の情報発信や普及拡大を目的としています。

また、「経営戦略としての広報改革」～「眠れる広報」から「稼ぐ広報」へ、トップが決断すべき組織変革」と題して、(株)博報堂の安川徹氏より講演いただきました。

中央会の宮本隆幸会長は「食料・農業の大切さやJAが果たす役割などを積極的に情報発信してほしい。JAの広報がさらに強化され、JAと組合員・地域とのつながりが深まることを祈念する」と挨拶しました。

表彰JAと表彰対象の通信員は以下の通り。かつこ内は所属JA。(敬称略)



▲広報コンクール受賞者JAの皆さん

◇JA広報コンクール

◆総合の部

- ▽最優秀賞Ⅱ JA菊池
- ▽優秀賞Ⅱ JAかみましき
- ▽優良賞Ⅱ JA熊本うき
- ▽パブリシティの部

◆優秀賞Ⅱ JAかみましき

◆SNS等活用部

◆優秀賞Ⅱ JA菊池

◆組合員向け広報誌の部

◆優秀賞Ⅱ JA菊池

◇通信員表彰

(全国)

▽令和6年12月最優秀写真賞

永村章(熊本うき)

▽令和7年8月話題賞

中村時彦(かみましき)

(県域)

▽最多投稿賞Ⅱ松原愛(たまな)

▽敢闘賞Ⅱ溝口知紗(菊池)

石塚光(熊本うき)

藤岡来未(やつしろ)

宮原啓介(くま)

▽新人賞Ⅱ森田麻紗美(あしきた)



▲功績表彰を受けた通信員の皆さん

JA経済連

令和8年度春夏瓜類・春野菜出荷大会

～オール熊本で販売目標金額360億円目指す～

JA熊本経済連は3月12日、熊本市中心区のホテルで令和8年度春夏瓜類・春野菜出荷大会を開催し、生産者や市場関係者、JA関係者ら約260人が集まりました。県産春夏瓜類・春野菜の出荷が、いよいよ全国に向けて始動します。販売目標は360億円(春夏瓜類90億円、春野菜270億円)。産地と市場が一体となり、目標達成に向けて結束を固めました。

同連は基本方針に

- ①環境変化に対応する産地体制
 - ②県域一体となった円滑な販売
 - ③多様な販促活動とPR——
- の3つを掲げます。気候変動や生産者の高齢化など、変化する環境下でも安定した生産供給体制を維持し、「熊本プラン」のよりなる浸透を目指します。



▲挨拶をする丁道夫会長



▲鮮やかに装飾された会場

同連の丁道夫会長はあいさつで「寒波の影響などもあったが、総じて好天に恵まれ生育はおおむね順調。熊本地震から10年の節目の年。支えていただいたみなさまへの感謝と更なる連携強化を目的に新たな販売促進活動もを行い、全国の消費者に選ばれる青果物の安定生産、安定供給に取り組み」と決意を述べました。

8年産における春夏瓜類・春野菜の作付面積は、生産者の高齢化などの影響で減少傾向。

8年産の生産計画(3～6月)は、春夏瓜類で作付面積705ヘクタール(前年比95%)、出荷数量2万4,012t(同96%)、春野菜で作付面積2,454ヘクタール(同98%)、出荷数量7万6,448t(同98%)を見込みます。

JA共済は、皆様の新生活を応援します★

この春、入園、入学、就職、転職、セカンドライフのスタートなど、ご自身やご家族が様々な環境の変化を迎える方も多いのではないのでしょうか。JA共済では、ひと・いえ・くるまの総合保障でおひとりおひとりそれぞれに必要な保障を

トータルでご提供しています。環境の変化は保障の見直しに最適な時です。この機会に、ご家族の安心の保障を見直してみませんか？



新JA共済キャラクター「ミノリツタ」

★★★★ ひとの保障 ★★★★★

＜終身共済・医療共済・年金共済＞ご自身やお子様が新社会人として働き始める方には、終身共済と医療共済、そして年金共済を併せておすすめします。万一の時残されるご家族のための保障と、けがや病気に備える保障、老後の資金については、若いうちから計画的に備えておきたいものです。

★★★★ いえの保障 ★★★★★

＜建物更生共済＞建物はもちろんですが、家財の保障を忘れていませんか？近年、大規模な地震や水災、落雷によって、家財にも大きな被害が出ています。一度に複数の家財が被害を受ければ、想像以上に費用がかさむこともあります。ぜひ「建物更生共済My家財プラス」で万全の備えを整えましょう。

★★★★ くるまの保障 ★★★★★

＜自動車共済＞高校卒業を機にお様が自動車運転免許を取得されるご家庭も多いのではないのでしょうか。現在ご家庭にあるお車をお子様も運転される場合は、ご加入の自動車共済（保険）の運転者年齢条件等を必ずご確認ください。また、お子様が自転車通学を開始される場合、「日常生活賠償責任特約マールモア」の付加をぜひご確認ください。熊本県では、令和3年10月1日から自転車損害賠償を保障する共済（保険）等への加入が義務付けられています。

農政連

「JAグループ農政推進の集い」が開催される

JA全中と全国農業者農政連動組織連盟（全国農政連）は、3月5日に「JAグループ農政推進の集い」を開催しました。

わが国農業・農村は、生産資材価格の高止まり、緊迫化する国際情勢、鳥獣被害の深刻化など、様々な課題に直面しています。

こうした中、我が国においては、食料安全保障の強化に向け、5年間で農業の構造転換を進めるため、既存予算とは別枠で思いきった予算を確保する方針の下、7年度補正予算や8年度当初予算・税制改正等においては、農林水産大臣をはじめ与党国会議員の先生方のご尽力により、農業関連予算の増額や産地負担のさらなる軽減など、JAグループの要請をふまえた対策を措置いただきました。

このJAグループ農政推進の集いは、今後とも与党国会議員と連携を深め、農業・農村・JAグループの発展に向けた農政のさらなる推進を期すために開催されました。

催されました。

主催者挨拶で、JA全中の山野徹会長は「昨年は農業構造転換集中対策について事業規模を2.5兆円とするなど食料安全保障の強化に向け、農政を大きく前進させる具体化がなされた。本年の農政は、米対策が最重点と認識している。備蓄水準の回復や需要に応じた生産の推進、水田政策の見直しの具体化など課題が山積している」と述べました。

また、来賓として登壇した自民党の鈴木憲和農林水産大臣は「日本の農業はこれから勝負だ。政府が前面に立つて、海外での需要の開拓を行う。世界から評価され、稼げる第一次産業で次の世代に地域をつないでいく」とあいさつしました。

この他、自民党の森山裕食料安全保障強化本部長や同じく宮下一郎総合農林政策調査会長からも力強いメッセージをいただきました。



▲大会で主催者挨拶を行う全中の山野徹会長



▲大会で挨拶を行う鈴木憲和農林水産大臣

